

生態系保全活動を契機とした地域振興

さかづら

さと

うつのみやし

逆面エコ・アグリの里 (栃木県宇都宮市)

- 〇 本地域は、宇都宮市の中心市街地から北方約10kmに位置する農村地帯。地域住民の混住化・ 高齢化、周辺地域の開発が進行。
- 地域内に設置されたフクロウの巣箱で、産卵が確認されたことを契機に、地域をあげてフクロウを保全する機運が向上。このため、H19年度に組織を設立し、農地・水・環境保全向上対策を活用し、フクロウをシンボルとした生態系保全活動を開始。
- フクロウの保全活動を契機として、農産物のブランド化に繋がったほか、当地域を舞台として、 生態系に係る学術研究も活発化。

【地区概要】

- •取組面積 123ha (田 123ha)
- 資源量 開水路20.2km、パイプライン3.2km、 農道25.2km
- 主な構成員 農業者、自治会、子供会、学校等
- ·交付金 約5百万円(H29)

農地維持支払 資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

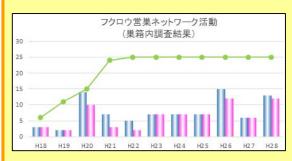
- 本地域は、水田の広がる農村地帯であるが、宇都宮市街に近いことから、混住化が進み、農家人口が年々減少し、農地・農業用水等の適切な保全管理に支障。
- 〇 平成17年に、自治会の住民が属するN PO法人(自然活動団体)がフクロウの巣 箱を設置したところ、翌年産卵が確認され、 またたく間に「逆面の自然を守る、地域を あげてフクロウを守りたい」という機運が向 上。
- 〇 このため、平成19年から農地・水・環境 保全向上対策を活用した、地域資源の保 全活動を開始。

単箱設置

水路の蓋掛け(カエル蓋)

取組内容

○ フクロウを育む豊かな生態系を有する里として、フクロウの巣箱設置やエサ場の環境整備、希少種の調査・監視と保護活動等を実施。



産卵数・孵化数の推移

○ これらの活動により、フクロウのエサ場を 守るための減農薬・減化学肥料に取り組む 農業者もでてきており、生産された米は、 H22年度に「育む里のフクロウ米」として商 標登録されるまでに波及。

取組の効果

- 地域内でフクロウが継続的に営巣し、里山 の豊かな環境が保全。
- 地域ブランド農産物「育む里のフクロウ米」 として付加価値を高めて販売。
 - 減農薬等への取組面積 平成28年度 64 ha 通常米の販売価格(1,350円/5kg) →フクロウ米の販売価格(2,500円/5kg)
- 地元大学と連携し、フクロウの生態や地域 の生態系に関する学術研究が活発化。



フクロウの赤ちゃん



育む里のフクロウ米